

人

五九 受信〇四五〇

電〇四四四二

作概〇

昭和三十一年五月九日



大海 海 隊 線 口

佐 鎮

秘密電話第〇八一七〇五番電

大海機密第〇七一五〇一番電開聯

一 對飛行機機雷監視所 佐鎮命令第二〇〇號 (五月一日)ヲ以テ緊急整備中

二 舟艇磁氣掃海隊整備狀況

(1) 佐鎮配屬九隊編成完了長崎、三池及博多未進出

(2) 下防配屬一隊進出ス

(3) 鎮齋配屬 旅特根一隊鎮防二隊進出ス、羅特根三隊中一隊待機 (萩川丸便乘)

(4) 上根配屬一隊待機 (聖川丸便乘)

(5) 其他

(6) 三式掃海具在座 (五月八日現在)五八組所要數一四一組不足八三組

(7) 掃海用舟艇新規供給ヲ要スモノ八五隻

(岩崎)

五八 受信二一五二〇
譯始二一五二〇

譯了二二五九 電〇四三〇三

昭和五年五月九日
作無本
航本

作戰要旨

横濱航空基地



第二鈴鹿、厚木各空基地
喜界、鹿屋、美保各空基地・海軍總隊口・佐鎮

通報 第一〇〇一航空隊 美保派遣隊指揮官
第一推進航空部隊 信龍令作第六九號

一、UFB信龍令作第六六號中第一空挺隊輸送機ノ派遣ヲ取止、第

二鈴鹿航空隊ノ派遣機數ヲ二機ニ改ム

三、第一項任務用トシテ第一空挺隊指揮官ハ五月九日〇八三〇迄ニ

式陸攻一機ヲ第二鈴鹿基地ニ空輸一時第二鈴鹿航空隊ニ逃避トシ

ムベシ一搭乗員ヲ含マズ

三、第二鈴鹿航空隊指揮官ハ行動隊定ヲ關係各部ニ報告(通電)スベ

シ。
通四八四四 呂一B々十一(一)ニ横濱實 屋(飯田)



五 一〇 受信〇九二〇五 譯了 一〇四九 電〇四九八三 參作 本概

聯合艦隊 日

共 符

機密第〇八一九二八番電

照參電第四〇五號

八日バラオ時報

一、一八〇〇泡ノコスソル水道出入港艦船左ノ如シ

出港輸送船二(何レモ八千噸級滿載内一隻、甲板上飛行機ヲ搭載)

輸送船一(六千噸級滿載) 入泊輸送船七(八千噸級四、六千噸級

一、千五百噸級二何レモ滿載) T〇二(何レモ八千噸級滿載) O H

二

三、一八〇〇ニ於ケルコスソル狀況左ノ如シ

輸送船一五油槽船五驅潛艇八其ノ他一

通五五三〇 三一八ヲ十四(一五七一〇K) 三通

奥野(渡辺)

昭和廿年五月拾日

人

五九 受信一三五〇 諺丁一四五七 電〇四五八九
諺始一三二二

共符

參作
本稿

昭和廿年五月拾日



機密第〇九〇七三〇番電

發 南島島守備部隊指揮官

着信者 横領長官 軍令部次長 參謀次長

受報者 十村潛司令 七五二空司令

戰團概報一五月八日

一、一五〇B丁二四一二機來襲高度約三・七〇〇米ニテ投擲一一五七

發退トリ内一機胴体及翼ニ直撃ニ命中全面火炎竝ニ無煙ニ包マレ高

度速度共ニ急激運動ノ自由ヲ失フ偽機ニ機之ニ一敵泊ノ浮上セルヲ

諺人一二一〇一九機一軒ニテ損傷機ノ感零

五〇九二 射撃機 機密 一五〇九二 射撃機 機密 一五〇九二 射撃機 機密
長尾 (機密)

1964

三 戦果 陸一機

四 被害 戦死陸軍兵四器舎大破六道走路被弾數發アリシ陸軍九〇

○修理完成

II

五九 受信一五四〇 譯丁一七五〇 電〇四九一一 航作概〇
 緊急 官崎航空基地



出水航空基地
 鹿屋航空基地

機密第〇九〇九五四番電 二分ノ一

發 第七六二航空隊司令

宛 出水基地指揮官

通報 九州航空隊司令官 攻醫第四〇六飛行隊長

機密第〇八一七四〇番電關聯

基地進出五月八日實施ニ伴ヒ攻醫第四〇六飛行隊ヲ含ム銀河隊ノ

整備上必要ニ付基地殘留中ノ四〇六附無線兵器整備員ト雷波兵

器整備員ハ可及的速ニ美保基地ニ進出セシメラレ度。

通電一信課註本電二分ノ一未着(七八七五)一RFGD放

富田(小)

五九 受領一五四二〇 丁一十一五 電〇四九一〇 航作橋本〇

昭和廿年五月拾日



父根職岡橋級着信處所

父 通

機密第〇九一一三五番電 二分ノ一

發 父島特機司令官

通報 第二輸送隊司令 第一六號輸送艦 (五月八日)

了〇三三三哨戒機ヲシキモノヲ探知ス〇三三八ヨリ〇四三〇迄編隊西
方二五〇軒附近ヲ北西進〇六五五小敷機西方約三五軒ヲ北上〇九一
七及一〇〇〇 二箇編隊二五軒附近ヲ北進。

(以信線註 本電二分ノ二未着)

週五 一五七 天 一 B ケ 十 (B) 横道 内山 (庭 田)

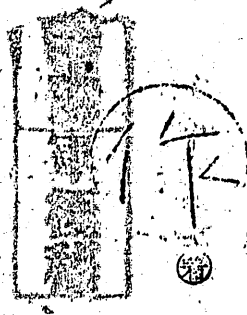
人

五九
 緊急
 受信 二二〇四二
 譯了 二二三〇
 〇〇四八四一〇
 航機本
 木更津空基地

七基地航空部隊作命着信艦所

機密 〇九一四三八番

二分ノ一、二



第七基地航空部隊信令作第五號

警戒配備並ニ防空警報ノ發令(變更)關シ左ノ通定ム

一、第七基地航空部隊所屬全部隊ニ依ル(本職司令部)所在地區ニ

對スル配備並ニ警報ハ本職之ヲ令ス(地區)冠セザル場合ハ全

部ヲ示ス

二、警戒地區及地區指揮官ヲ左ノ通定ム 敵情ニ應ジ警戒ヲ嚴ニセ

ヨ關東地區(含郡山)

本職(名古屋地區)豐橋岡崎名古屋鈴鹿河和航空基地(第五七

航空戰隊司令官 三右以外地區配備中ノ部隊ハ指揮官所定ニ依リ最寄地區

本令實施時機、五月十五日〇〇〇〇トス(大井藤枝地區第一三三

航空戰隊司令官 通五三五〇・五三六七 呂一〇ケ一二(木更津基地)長谷山(田中)

昭和廿五年五月拾日

昭和廿年五月拾陸日

五九 受信二三二四〇 譯了二三三五〇 電〇四八四一〇 航 概〇
譯始二三三〇〇

緊急

木更津航空基地

七基地航空部隊作戰命令着信艦所

行

機密第〇九一四三八番電 二分ノ一二

第七基地航空部隊信電令作第五號

警戒配備並ニ防空警報ノ發令(變更)ニ關シ左ノ通定ム

一、第七基地航空部隊所屬全部隊ニ依ル(本職)司令部(所在地區ニ對スル)

配備並ニ警報ハ本職之ヲ令ス(地區ヲ冠セザル場合ハ全部隊ヲ示ス)

二、警戒地區及地區指揮官ヲ左ノ通定ム

敵情ニ應ジ

(1) 關東地區(含那山)本職

(2) 大井薩波地區第一三航空戰隊司令官

五三三五七〇

呂一Bケ十一(B) 木空航空基地

長谷川(齋七) (1)

（四）名古屋地區（豊橋岡崎名古屋鈴鹿河和航空基地）第五三航空戦隊

司令官

三右以外ノ地區ニ配備中ノ部隊ハ指揮官所定ニ依リ最寄地區ノモノヲ
準用ス

四本令實施時機ヲ五月十五日〇〇〇〇トス。

附註

（開始箇所ニ誤アルニ付前紙ト引替）

一〇 受信 〇〇九四〇五 譯了 一一三〇 電 〇四九八七

參作 本職

昭和廿年五月拾壹日



- 三〇 特根・航空艦隊戸・先遣部隊戸
- 四六 警備隊・ヤソフ航空基地

特務第 〇九一五五五番電

PP 附近敵艦艇狀況速報 (五月九日)

一、〇六一五ヨリ 〇九三〇迄輸送船三 (何レモ八千噸級滿載) 油槽船三
 (一萬噸級一八千噸級二何レモ滿載) 曳船一 (筏三ヲ午前コスソル
 水道入港)

二、一〇四五ヨリ 一二〇〇迄輸送船四 (何レモ八千噸級滿載) 油槽船六
 (一萬噸級三 八千噸級三 六千噸級一) 小型艇三 コスソル水道出港
 三、一二〇〇コスソル水道碇泊艦船

大型輸送船十一 中型輸送船二 小型輸送船一 大型油槽船二 小型艇十二

曳船一。

通 一五二二

島 一Bヲ十編 (一五七一〇) (三通) 小森 (松山)

五 一〇 受信二一四〇 譯了〇六二五 電〇五三七八 作 織

至 急

高雄警備府



東通・海軍總隊 高雄警備府
海上護衛總隊、南西方面艦隊、支那方面艦隊、二遣支隊、
一航空艦隊、海南警備府、馬根、臺灣航空隊、基隆防備隊
高雄警備府

機密第〇九一七〇一番電

五月八日敵機襲來状況

一〇八四〇ヨリ一三三〇ノ間B-125 一機南方ヨリ臺灣一周哨戒線東

附近ニ投弾B-124 一機東海面上 東地區二個所ニ投弾基隆北方

ニ退却他ニP-151 二機高雄西海面行動後南下セリ

三二〇四五ヨリ九日〇三三〇ノ間計六機南方ヨリ侵入主トシテ西海面行

動(内二機ハ臺北地區侵入投弾)一〇〇東海大型目標行動南下セリ

三戦果ナシ被害民間測若干アリ

冠五八九二 呂一Bラ十八(四七〇五KC)高通

山崎 (齋ト)

二三

昭和廿五年五月拾壹日

海軍基地七日敵機來襲狀況の四五〇ヨリ一八三〇ノ間小型機約四三
 概ネ 北東ヨリ侵入陸海軍飛行場反復銃爆東京方ニ退去セリ
 五〇七一〇ヨリ一八三〇ノ間陸上機一〇上空哨戒市街銃爆セリ。

後

昭和廿年五月拾壹日

五 一〇 尋受信一七四一四 尋了二七五六 電〇五一二四 作 機

至 急

東部空襲部隊戦國衛報着信艦所

ケンダリ一空地

機密 〇九一七二二番電

北空戦國衛報五月九日

一〇九四五 B I 24 六機北西方ヨリ一ケンダリ一基地 侵入第二飛

行場ニ投彈傳單撤布ノ後一アンベシヤ一基地上空旋回一〇〇〇北

東ニ去ル

三一四一四 B I 24 一機北東方ヨリ侵入一ケンダリ一アンベシヤ一

兩基地上空旋回傳單撤布一四三〇南西ニ去ル

三戦果ナシ 被害第二飛行場滑走路ニ三百乃至五百磅爆彈三八發

被彈復舊ニ數日ヲ要ス 第一飛行場異狀ナシ

通五六四八 呂一〇三十八 (一八三六七五) 二十一通 清水(石井)

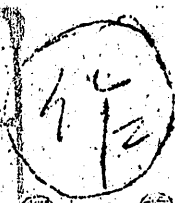
1974

人

五 一〇 受信二一五二 譯了〇一一〇 電〇五二七四 作機
二 一〇 譯始〇〇一〇

● 二 支 艦隊下

大海上護衛總口・支那方面艦隊下
● 聯合艦隊下



護衛艦隊下・高雄、海南各警備府・廈門根下

機密第〇九一八一〇番電 三分ノ二

一三二四兩朋B I 二四 一機低空執拗ニ銃撃被善海軍側ナシ

三菱發電所大破 民家三四焼失 戦果ナシ P三八 三機數編隊三分レテ

九日一一一五ヨリB I 二五 B I 二四約七〇機(香港)廣東地區及
廣九鐵道沿線ニ高度六〇〇〇乃至六五〇〇ヲ以テ侵入銃撃被哨

船一一沈没セル外。

「電信課註 本電三分ノ一、三未着」

通五九一五 呂一Bケ七(四七〇五) 高通 半澤(佐藤)

昭和廿五年五月拾壹日

926T

CSF

人

作

五 一〇 受信一二一五 譯了一四四〇 電〇五〇七六 作概
譯始一四二一

二道 支艦隊

海護總口・大海參一部・聯合艦隊口・支那方面艦隊口

高警・一護衛艦隊口・海警・厦根

機密第〇九一八一〇番電 三分ノ三

通報 香港根

概ネ投彈セス一四〇〇頃迄ニ南東ニ退去セリ

戰果ナシ 最近小數機ヲ以テスル偵察哨戒ノ外來襲極メテ閑散ナリ

シ所九日比島方面ヨリ大舉出撃セルモノト認メラル警戒ノ要アリ

(電信課誌 本電三分ノ一ニ未着)

通五五九四 呂一Bケ七(九一四五K)高二放

安彦(林部)

昭和廿年五月拾壹日

203

四敵機 P P P 發着

光 一 二四延六六機 P 四 U 一 一 二機 P 四 U 一 四 一機 B 一 二六
一機 P B P 二機計八七機 P P 二來襲銃爆撃ス

(イ) 昨八月一〇〇以後陸送機六・〇度へ七・一八〇度へ九・二七〇度

へ發三〇度ヨリ四九〇度ヨリ一四・一八〇度ヨリ四・二七〇度ヨリ

着 (八月計陸送機五〇發三九着大型機四〇) B 一 二四 一機發 B 一 二

五 (二機發)

(ロ) 本九日一〇〇迄陸送機一五機〇度ヨリ一・六〇度ヨリ一・九〇

度ヨリ二七・一八〇度ヨリ一・二七〇度ヨリ一・〇度へ發

五被害

(イ) 六日大發一隻沈没

(ロ) 七日兵一名戰傷

(ハ) 本九日アラカベサン地區 B 一 二四延六六機ノ爆撃ヲ受ケ軍員二名戰

傷宿舍倉庫等計七倒潰車輛破壊大破若干機失

作

至急

五一〇

受信〇〇九五四
開始〇〇九五六

一〇三八

電〇五〇一五

航作
概本〇

昭和廿年五月拾壹日

共行

205

海軍總司令部 一設備艦隊 一〇三戰隊 黃海方面部隊
北東方面艦隊 附屬部隊

門司、若松、博多、釜山、京城、大連、天津各在勤武官
上海根、青根、旅根

機密第〇九一九五三番電 二分ノ一

發 春月驪途艦長

一九一五敵飛行艇二機 荷衣島泊地ニ來襲 傳シン島(一七九)ノ二二〇
度七六〇〇米及二三五度一〇〇〇〇米ニ磁氣機雷各二個合計四個ヲ投
下一九三〇兩西方ニ脫去セリ。

一電信課註 本電二分ノ二未着
週五五〇八 天二〇(五二〇〇)佐通

本田(山中)

五

一〇 野信一三四三

野丁一八〇〇 野〇チ一五八

就作概本〇

至 急

共 村



海軍省 第一課 第一課長 門司 一〇三〇

上海、青島、旅順各特根、門司、若松、博多、釜山、京城、大連、天津各在勤武官

機密第〇九一九五三番電 二分ノ二

發 奉月 關 返 監 長

尙七日夕ニモシン島(一七九)ノ二五〇度三〇〇〇米及一〇九度

五〇〇〇米ニ亘リ磁氣機雷ラシキモノ投下セシニツキ今後船舶ハ

極力シン島ニ接岸航行スル様指示サレ度

(電信課註 本電二分ノ一既配布)

通五六四三

天二〇ケ八(五二〇〇KG)佐通 牧野(松山端)

昭和廿年五月拾壹日

五一〇 受信〇〇一五 終了〇三三〇 電自〇四八四八 作
開始〇二一五 至〇四八五〇 多本

緊急



共

符

東通・横通・三航空艦隊口・聯合艦隊口
小笠原部隊△・四艦隊口
機隊第〇九二〇二五番電 三分ノ二二三

發南島島子備部隊指揮官

受報者 八八一空司令 第五二空司令

戰圖概報 (五月九日)

一七日〇五〇〇彩雲三機P.P.ニ向テ發ノ爲出發線ニ就キシモ一機發動

機故障爲待合申 〇六〇八三一三四 一機西方ヨリ一〇〇度約五

十米ニテ近接引繼中B-1二四 四機及P.B.四V-1二 三機何レモ低

高度テ飛行機其ノ他ヲ銃爆撃セリ 高角砲及機銃ヲ以テ之ヲ追撃一

〇〇度一〇〇〇米及四〇度五千米ノ海上ニP.B.V-1二機ニB-1二四

五五三九七三
五三三九七三
五四〇九七三

自一五十八(五一〇〇)南營

丸山崎 (川口)
満水

一機宛ヲ墜陸基ノ他殆ト全部ヲ墜陸破セリ 陸攻及彩雲各三機炎上

セシモ彩雲二機ハ敵襲中ニ離陸シテ二向ケ發シ一機〇六三〇途中

返リテ返シ 〇七四八歸着

(四) 墜陸敵機中四〇度方向ノモノ今間モナク沈没セシモ一〇〇度方向

ノモノハ破片浮流シ搭乗員四名浮舟ニテ漂流國後ヲ派遣セシモ敵

機ノ再度來襲ヲ顧慮遲延セル爲沖合ニ漂流遂ニ收容ニ至ラズ浮舟

二機ニ對シ他若干ヲ收容一三二五頃B J二四 一機及海上潜水艦

出現敵機ハ潜水艦ヲ誘導右四名ヲ收容此ノ際十五纏五砲射撃ヲ開

始セルニ直ニ落没セリ 一四一五ヨリB J二四ヨリ一七PB四V

一PB V一機宛交代夕刻迄飛行機墜落地點ヲ引續中搜索セリ

五

三發射彈數(殘彈數)一五纏砲三(四〇七)十二纏七 高角砲一五

(八〇二)八纏高角砲五(二五六七)二五耗機銃一七一八十三耗機

銃九〇一

(一)

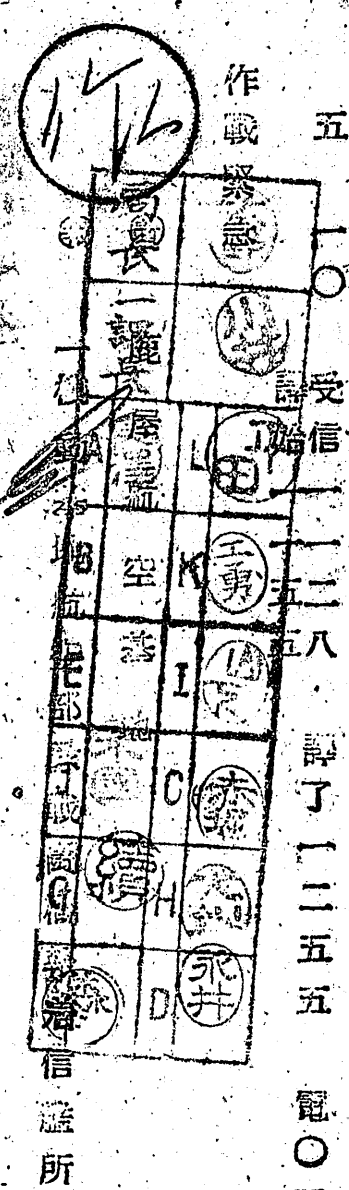
三 戰果 擊墜二 擊墜機不確實一 （印） 中破三

四 被擊戰死海軍下士官二 七 五 二空 重傷一 水陸部海軍三 陸軍下士官

三兵六 重傷海軍下士官一 兵三 陸軍將校二 下士官一 兵五

長波測定所泊地長波測定器二 組司令部假幕會大破五

昭和廿年五月拾日



五
 一〇
 一〇
 一〇
 一〇
 一〇
 一〇
 一〇
 一〇
 一〇
 一〇

三番機敵ヲ捕捉シ得ズ發砲燦光ニ對シ攻撃效果ナシ
 〇六〇五迄ニ
 全機官崎着急速退ノ爲報告未済
 二、戦果後報

三、被害ナシ

四、本日ノ實働機數第七戰隊機隊第九八戰隊未定攻撃第五〇一飛行隊
 ナシ。

「實信標註 本頁二分ノ一既配布」

通信三七六 呂 一〇〇七五九 (七八七五九) 一〇〇七五九 (七八七五九)

昭和廿年五月拾壹日

航作概

20本〇

人

五
一一〇 受信一七五五 開始〇八二五
聯丁〇九一〇 電〇五四二六 作 概〇



聯合艦隊口

共 符

機密第一〇〇八〇七番電

照參冠第四〇一號 九日バラオ特報

一〇六〇〇一八〇〇コスル状況左ノ如シ 出港輸送船四(何レモ八千噸級滿載) 油槽船六(一万噸級二隻八千噸級三隻六千噸級一隻何レモ滿載) 驅潛艇三入泊輸送船三(何レモ八千噸級滿載) 油槽船三(一万噸級一八千噸級二何レモ滿載内一隻ハ甲板上舟艇四搭載) 其ノ他三二一八〇〇ニ於タルコスル状況左ノ如シ 輸送船一國油槽船二驅潛艇九六亞細亞船三。

通五十四六 呂一Bヲ十四(一五七一〇R)三通

吉川(庭田)

昭和五年五月拾壹日

人

五 一〇 受信 一三四二 譯始 一三五〇 譯了 一四三〇 電〇五〇五四 作 概〇

至 急

三 陸 部 隊



三陸部隊・九〇三空山田派遣隊
海上護衛總口・横鎮口・大警口・横防戦口・九〇三空口

機密第一〇〇八一五番電

三陸部隊電令第八號

掃蕩隊ハ一〇〇〇ニ至ルモ敵情ヲ得ザレバ山田入港命ヲ待テ

通不六〇六 天二日ケ十一(B) 横須賀 森(森田)

昭和廿年五月拾壹日

停

五
一〇
受信一一四〇六
機丁一二三〇〇
電〇五〇〇〇
航作機
和

緊
急

● 不更津航空基地

● 十基地航空部隊

機番第一〇〇九二八番電

● 第三航空艦隊參謀長

敵小型機捕撈艦隊及被統制阻止（防空用氣球等）欺騙（四機四機等）
並ニ被害局限ニ關シ研究實施ヲラレ度尙適正ナキ方法ハ速ニ各部ニ通告
セラレ度。

四五五六六

四一〇六一一〇六九七〇五（七）

第六〇〇〇〇

昭和廿年五月拾日

五一〇 受信一八五〇 譯丁一八五〇 電〇五一四二 作 概

● 鹿屋航空基地

● 一基地航空部隊戰國報着信艦所
關東空



機密第一〇〇九二九發電

關東空部隊戰國報着二〇號（五月十日）

一 警界二機〇二三〇發進〇四二〇一〇四三〇北飛行場爆彈滑走路附

近命中（二五番三號）日視戰果ナシ〇六二〇歸着

二 警界二機〇四三〇發進奄美大島附近索敵攻撃敵ヲ見ズ一機志布志

三 降着

三 天候快晴雲量一一二雲高一〇〇〇一五〇〇米視界五浬

通五六六五 呂一八七十一 一八七三〇 一五九〇〇 放丸山（石井）

昭和廿年五月拾壹日

人

五 一〇 受信 一一五〇五 譯丁 一二三五 電 〇五〇一七 補 設

東 通・門司在勤武官

上海通信隊代表機關

機密第一〇〇九四一 電話 二分ノ二

毛布 一九〇 立方米、酢 一〇 四 立方米、大豆 三五〇 瓩、小麥 一五〇 瓩

鋸塊 一六〇 瓩、皮革類 九八 立方米、銅碎 一三八 瓩其ノ他雜品 一〇〇

立方米

大ハ丸綿花 一〇〇 立方米綿糸 九〇〇 立方米、米 二七一 瓩、航空燃

料 三〇〇〇 ドラム

五シヤカルタ丸綿花 五〇 四 立方米、小麥 一〇五六 瓩、流塗燃料 七〇〇

ドラム、米 七八九 瓩

電信課註 本電二分ノ一未着

通五五六七 天二 ケ 一 一 一 四 九 三 〇 〇 〇 上海

昭和廿年五月拾壹日

1996T

昭和廿五年五月拾壹日

五二〇

受信一四三〇

了二五三〇

電〇五〇七八

航作概本〇

至無

東京通信隊

共

符

作

吳通信隊・大村航空基地

機密第一〇一一二番電

二分

發一、A、P、陸隊長

宛 航空本部總務部長

南九州各基地連續被爆ニ依ル消耗補充用及中練秘匿、都合上(牧、原、岩川、岩川街道及人吉)新規充當用トシテ左ノ車輛類等二十二航空廠宛無送ヲ得度。

電信陳註 本電二分ノ二未着

通五六二一 四一〇二六(内)ア、内田(松山瑞)

五 一 一 受信 〇〇〇三 八 譯了 〇〇四五 電 〇五七二五 作 概 〇



東

通・聯合艦隊 口

一〇一—一四〇

通電先 軍司令部次長・聯合艦隊 球參電第 三一五號

爾後ノ作戰指導ニ關シ航空作戰其ノ他ニ關シ關係方面ニ連絡戰闘ノ實相・戰訓等報告ノ爲軍參謀ヲ派遣致度ニ付水偵ノ派遣方御願致度

通六三六〇 協作 (B) 佐通 岩佐 (福田)

昭和廿年五月拾貳日

Handwritten mark resembling a stylized '9' or '4'.

五 一〇 受信二〇二五 開始二二〇〇 〇五 丁二三一五 〇五二二五 作 〇

緊急 (Circular stamp)

緊急 三 一 通 一 一 根

機密 一〇一二二二五 電話二分ノ二

(通達先) 尙武臺灣派遣隊長 武藤參謀威 (尙武)

當際トシテモ斬込ノ經驗ニ鑑ミ月明期ニ努メテ悪天候ヲ利用セバ

(北部比島逐次雨期トナル機會多シ) 成功ノ算大ナルモノト確信

ス。

電信課註 本誌二分ノ一既配布

五八二三 〇一〇七七 (六二三五) 十通 山本 (鈴三)

昭和廿五年五月拾壹日

219